

学部生が参加者の大半を占める国際ワークショップの準備と実施

- その1 「日韓都市・建築デザインワークショップ2012」の概要 -

正会員 ○加藤 浩司*1 同 谷口 弘和*2 同 辻原 万規彦*3

7. 都市計画 - 9. 教育と資格

牛深, 短期集中型ワークショップ, 準備, 混成チーム

1. はじめに

2編で構成する本報告は、今後、国際WSを開催する際の参考となるよう、2012年8月に熊本県天草市牛深町で開かれた国際ワークショップ（以下、ワークショップをWSと略す）について報告するものである。

対象WSは、韓国交通大学校建設工学部建築学科^{注1)}、千葉大学大学院工学研究科建築・都市科学専攻、熊本県立大学環境共生学部居住環境学科、有明工業高等専門学校（以下、有明高専）建築学科、以上4校の主催で行われた学生主体の短期集中型WS「日韓都市・建築デザインワークショップ2012（以下、本WS）」であり、次の3点がその特徴として挙げられる。①開催期間が3日間と短い。なお、上記4校で開催した1回目のWS（2011年8月、大韓民国・忠州市で開催^{注2)}）より、今回の開催期間は1日短い。②学生の募集にあたっては、都市計画・まちづくりについての学修レベルは問わず、本WSに関心を示す学生とした。結果、専門的に都市計画の研究や実践に取り組んでいない学生も数多く参加することになった。③チーム編成では、学校別や国別でなく、こうした日韓の学生を混成させた。

本稿「その1」では、本WS全体像を、準備段階での学生の取り組みも含めて示す。上述①～③の条件をふまえると、WS準備過程を取り上げることが重要と考えたためである。続く「その2」では、グループ作業の具体例として、「グループB」の取り組みを報告する。

2. 本WSの概要（表1、表2、図1）

本WSの概要を表1に示す。本WSでは、地域に開くことも意識し、開会式・閉会式に伴う一連の行事と発表会を公開、スタジオでのグループワークも見学可とした^{注3)}。加えて、熊本県立牛深高校3年生7名も、グループワークや発表会に参加した。

(1) 対象地とテーマ

天草下島南端を占める天草市牛深町は、熊本市から車で3時間、蔵之元港（鹿児島県長島町）からフェリー

で約30分の位置にあり、天然の良港を有し古くから漁業や海運の中継基地として栄えたところである。しかし、近年は、漁獲高の減少や人口高齢化による漁業従事者の減少などにより、主産業である水産業にも陰りが出てきている^{注4)}。こうした動きの一方、天草地域一帯で進める歴史・文化的資源、自然資源を活かした観光振興事業に力が入られている^{注5)}。

このような現状を受け、WSテーマは、「漁村地域における地域資源を活かした観光まちづくり」と設定された。対象地区は、牛深町中心地区、岡東地区、並びに真浦・加世浦地区の3地区とされた（図1）。牛深町中心地区は、牛深港の玄関口としての役割を担う地区である。かつて、この地区の中央には「金比羅山」という小高い丘があり、その周りに住宅や商店が軒を連ねていた。しかし、後の「中央地区土地区画整理事業（1972年～1984年）」で金比羅山は切除され、地区の大半は近代的な市街地へと生まれ変わった^{注6)}。現在

表1 本WSの概要 ^{注7)}

日韓都市・建築デザインワークショップ2012	
名称	日韓都市・建築デザインワークショップ2012 (International Urban and Architectural Design Workshop 2012 in Amakusa)
主催	韓国交通大学校建設工学部建築学科（国立） (Department of Architecture, College of Construction and Transportation Engineering, Korea National University of Transportation) 千葉大学大学院工学研究科建築・都市科学専攻 熊本県立大学環境共生学部居住環境学科 有明高専建築学科
共催	天草市教育委員会
後援	天草市、天草宝島観光協会、牛深商工会議所、(公財)日韓文化交流基金
テーマ	漁村地域における地域資源を活かした観光まちづくり (Promoting Ecotourism in AMAKUSA: a typical fishing village and development of its sustainability)
対象地	熊本県天草市牛深町 牛深港周辺の3地区：牛深町中心地区、真浦・加世浦地区、岡東地区
参加者	学生30名（日本：18名、韓国：12名） チューター5名（日本：3名、韓国：2名） 学生スタッフ2名（千葉大学大学院生）
期間	2012年8月21日～23日
事業費	参加費（25,000円/人：宿泊費、食費、資料代、Tシャツ代含む） (公財)日韓文化交流基金による助成事業 熊本県立大学地域貢献研究事業 天草市合宿補助金制度による補助
備考	熊本県立牛深高校3年生7名参加（8月20日：まち歩き、21日：開会式とチーム作業、22日：中間発表会、23日：最終発表会と閉会式）

Preparation and Implementation Process of International Workshop with Undergraduate Students

-(Part 1) Outline of International Urban and Architectural Design Workshop 2012 in AMAKUSA-

KATO Koji, TANIGUCHI Hirokazu, and TSUJIHARA Makihiko

は、フェリー乗り場に隣接する「うしぶか海彩館（観光情報センター、歴史資料館、特産品販売など）」と牛深港を横断する「牛深ハイヤ大橋」が、牛深町を代表する観光スポットとなっている。また、「牛深ハイヤ節^{注8)}」を踊りながら市民が練り歩く「ハイヤ総踊り」も、この地区を舞台として行われている。岡東地区がある一帯（古久玉）は、かつて花街として栄えたところである^{注9)}。家屋が密集する地区内部には、今も元遊郭の建物（空き家）が2棟残る。道路構成も特徴的であり、国道266号線から地区奥部（山の麓）までは細街路で

つながり、そこから狭い路地が建物の間を縫うように広がっている。真浦・加世浦地区は、長年の歴史の中で牛深町の漁業を支えてきた漁村集落である^{注10)}。海と山の狭間に狭小な住宅が集まり高密度な集落を形成し、その内部には、生活感あふれる狭い路地（1～2m）が網の目状に張り巡らされている。

(2) 参加者

学生は、韓国交通大学校建築学科(5年制)から12名、日本側から18名^{注11)}が参加した(表2)。教員は、韓国交通大学校2名(助教授)、千葉大学1名(大学院教授)、熊本県立大学1名(准教授)、有明高専1名(准教授)が参加し、各グループのチューターを務めた^{注12)}。

準備の進め方に基づき、以下、韓国交通大学校からの参加者を「韓国組」、千葉大学からの参加者を「千葉組」、これら以外の学校からの参加者を「九州組」と呼ぶ。

3. 準備段階の取り組み(図2)

千葉組と九州組が本格的な準備を始めたのは、いずれも7月半ばからである。千葉組は、参加学生のそれぞれが行う事例研究発表、およびその内容についての討議を重ねる中で、エコツーリズムについての理解を深めた(ゼミ#2～4)。一方、千葉組に比べると国際WS経験に乏しい九州組は、WSでの活動についてイ

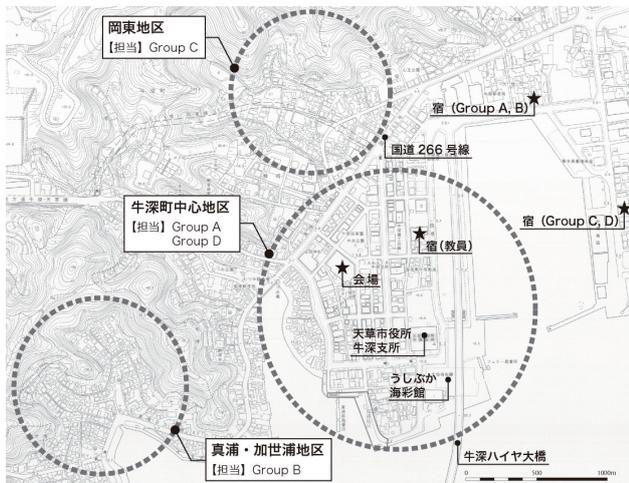


図1 対象地区の位置

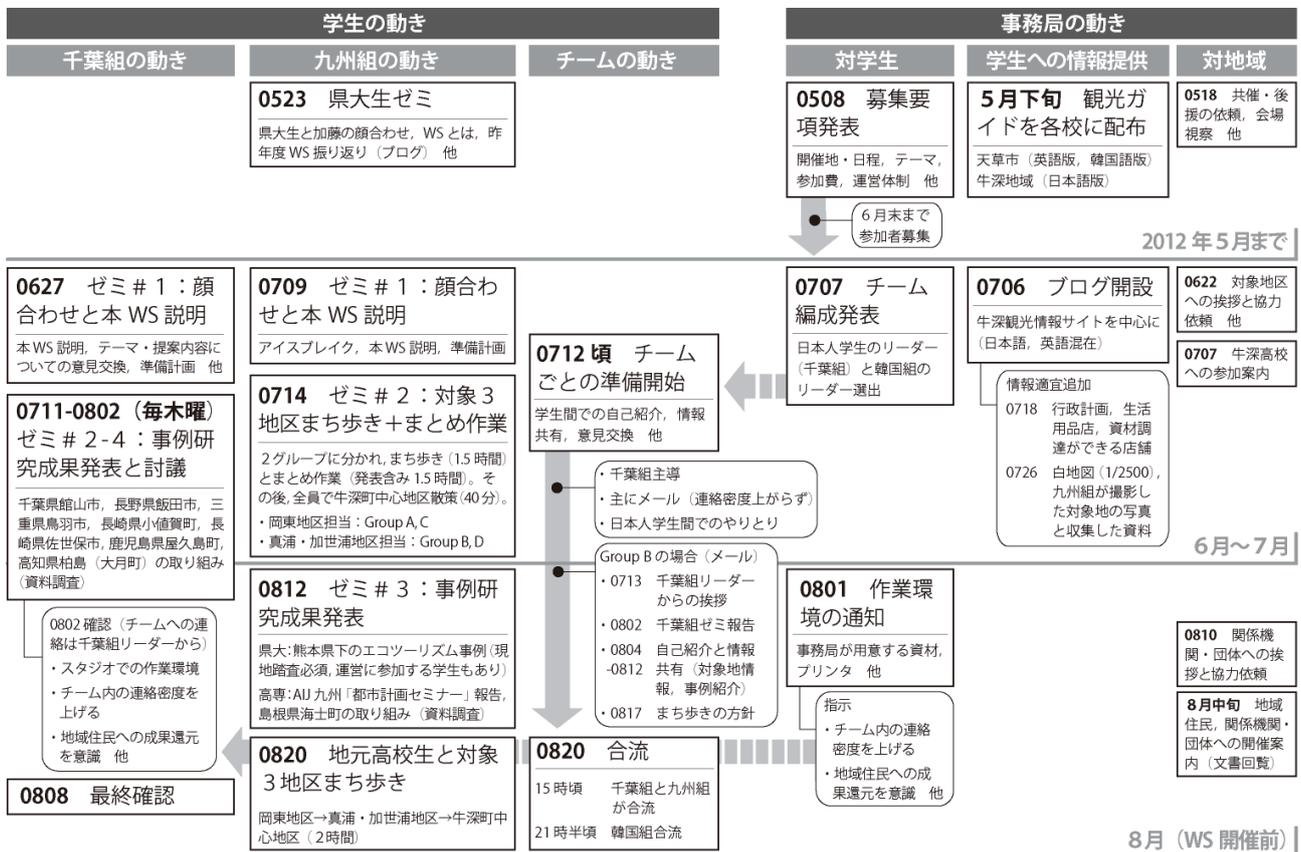


図2 WS準備の過程^{注13)}

メージを共有するところから準備を始めた（県大ゼミ、ゼミ#1）。そして、7月14日には、真浦・加世浦地区と岡東地区についてのまち歩きとまとめ作業（マップづくり）を行った（ゼミ#2）。WSで用いられる現状認識手法を経験する、学校の垣根を越えたグループワークを経験する、並びに対象地区の情報を収集することが、こうした準備を行う理由であった。なお、当日は、これらに加えて、牛深町中心地区散策と観光情報センター・歴史資料館（いずれも、うしぶか海彩館内）見学も行っている。対象地区の情報収集という点では、本WS開会前日にも、牛深高校3年生7名とともに対象3地区のまち歩きを実施した。また、この間の8月10日には、参加学生の研究発表を通じて、エコツーリズム事例についての情報共有を図った（ゼミ#3）。

表2 参加学生一覧^{注7)}

国際WS 経験有無	韓国組 (12)	九州組 (11)					
		千葉組 (7)		熊県	有明	熊本	大阪
		都市 計画	建築 計画	環境 工学	建築 計画	建築 計画	建築 計画
経験あり (5)		M2 (男) M1 (男) B4 (女2)		M2 (女)			
経験なし (25)	M2 (男) B5 (男3) B5 (女3) B4 (男3) B4 (女) B3 (男)	M2 (男2)	B3 (男)	B4 (男2) B4 (女3)	B3 (男)	B3 (女2)	M1 (男) MI (女)

凡例 千葉：千葉大学，熊県：熊本県立大学，有明：有明高専，熊本：熊本大学，大阪：大阪市立大学

*1：欄中の表記は、学年・性別・人数を表す。人数表記は、同じ属性の学生が複数人いるときのみ表記する。太字表記の学生は、リーダー。

*2：下線は、有明高専卒業生を示す。有明高専を卒業したB3学生の専門分野は、有明高専在籍時の所属研究室に基づく。また、有明高専を卒業した大阪市立大学M1学生（男）は、有明高専では都市計画研究室に所属し、その後、和歌山大学建築計画研究室を経て現所属。

*3：大阪市立大学M1学生（女）は、熊本県立大学では、建築設計研究室に所属。

*4：韓国組M2学生の専門分野は未確認。学部生は研究室に所属せず。

表3 WSのスケジュール^{注7)}

時間	19日	20日	21日	22日	23日
7時30分～8時30分	九州組現地入り ↓ 会場設営	朝食 (学生は民宿で)	朝食 (学生は民宿で)		
9～12時		自由時間	開会式、話題提供(3題)、チーム紹介	グループ作業 10時～ 中間発表会	グループ作業
12～13時		昼食	昼食	昼食	昼食
13時～18時30分		13～15時 九州組：高校生とまち歩き 15時～ 千葉組と九州組合流	まち歩きとグループ作業	グループ作業	グループ作業 14時～ 最終発表会、閉会式
18時30分～19時30分		夕食 (学生は民宿で)	夕食 (学生は民宿で)		
19時30分～22時	自由時間	千葉組と九州組で打合せ 21時30分～ 韓国組合流	グループ作業	グループ作業	さよならパーティ (レストラン)

各チームの準備は、上述の準備に並行し、チーム編成発表後の7月半ばから始められた。しかし、提案の方向性や期間中の活動計画などについて、チーム内での密な意見交換は進まず、特に、日本人学生と韓国組の事前のやり取りは皆無であった。具体的な準備が行われたのは、メンバーが合流した本WS開会前日であり、この時も日本人学生を中心に話し合いが行われた。

対象地についての情報収集は、事務局がブログを通じて、観光案内や行政計画などの基礎情報、および7月14日に九州組が収集した情報（対象3地区の写真、歴史資料館などの展示資料とまち歩き成果マップの写真）を提供した他は、各グループの取り組みに委ねられた。

4. WS期間中の取り組み（表3、表4、図1）

表3に、開会前に現地入りした九州組のものも含め、本WSのスケジュールを示す。このうち、開会式、中間発表会、最終発表会、並びに閉会式では、日韓/韓日の通訳があった。これらの他、グループワークが始まった当初は、学生スタッフとして参加した韓国人留学生が、通訳を行う場面も時折見られた。

WSの会場は、牛深町中心地区内の「牛深総合センター」であった。各グループの調査活動と最終日のパーティ以外の行事は、全てここで行われたが^{注14)}、使用時間には限りがあったため（8時30分～22時/20日休館）、夕食後は民宿で作業をするグループもあった。なお、学生は民宿2軒を借り切り宿泊（グループごと）、教員はホテルに宿泊した。

8月21日午前中は、開会式にあわせて、日韓両国における観光動向、および対象地の観光動向について、日韓それぞれ1名ずつのチューターと天草市牛深支所から話題提供が行われた。各グループによる活動が始まったのは、昼食後に計画されていたまち歩きからである。この時、まち歩きによる現状認識の他、ヒアリング調査をするところもあった。スタジオへ戻る時間はまちまちであったが、翌日の中間発表会に備え、夜も引き続き各グループでの検討や準備が行われた。

8月22日の10時から行われた中間発表会（1グループあたり、通訳・移動時間含み25分）では、提案の方向性を明確化するため、テーマを打ち出すことが必須条件とされた^{注15)}。これを受け、各グループからは、テーマを中心に現状認識の成果などが主にプレゼンボードを用いて発表された。各発表に対しては、チューターから質問や意見が活発に出されたが、総じて見れば、

チューターからのコメントは提案のまとめ方について示唆を与えるものが多かった。中間発表会の後は、最終発表会に向け、提案の修正や提案の具体化、さらには発表準備が各グループで進められた。

最終発表会は、一般公開形式で、8月23日の14時から行われた。各グループの発表(通訳含み10分)では、主にプレゼンテーションソフトを用いて提案の説明が行われた。各グループの提案要旨は、メンバー構成とあわせて表4にまとめるとおりである。発表に対する質疑応答(通訳含み10分)では、チューターだけでなく、会場からも意見や質問が出される場面もあった。また、チューターや地域住民の間で行われた最終発表会終了後の意見交換では、より質の高い提案のためには、WS開催期間が不足していたのではという指摘があった。開催期間については企画当初から周知をしていたこと、さらに前章の内容(日本人学生の準備状況)を加味すれば、参加者側の準備不足であったことも考えられる。

最終発表会後に開かれた「さよならパーティ」には、WS参加者だけでなく、地域の協力団体・機関も参加し、互いの親睦を深めた。その冒頭では、「牛深ハイヤ保存会」の協力で、パーティ参加者全員が牛深ハイヤ踊りに興じる場面も見られた。

5. おわりに

本稿では、対象WSの全体像と準備段階での学生の取り組みを報告した。その中では、質の高い提案をするには時間不足であった可能性もあることを示した。WSのための準備をいかに充実させるか、開催期間をどのように設定するかは、今後の課題であろう。

【謝辞】 本WS開催にあたり、熊本県天草市牛深町の関係機関・団体、住民の皆さまをはじめ、多くの方々にご協力をいただきました。深く御礼申し上げます。各校からの参加者の皆さまにも感謝申し上げます。

【補注】

注1: 昨年度WSには、忠州大学校建設交通学部建築学科として参加。2012年3月、忠州大学校が韓国鉄道大学を統合し、韓国交通大学校へ。

注2: 加藤、江藤、辻原他、韓国忠州市で開催された国際ワークショップでの差異の受容過程と成果の検証、日本建築学会九州支部研究報告、第51号、pp.361-372(3編)、2012.3。

注3: 天草市牛深町の関係機関・団体、住民、並びにマスコミから、開会式は12名、最終発表会・閉会式は17名参加(芳名帳)。スタジオ見学は、把握している限り、牛深高校生徒がグループワークに参加した以外はなし。**注4:** 林、牛深漁業の変遷、周縁の文化交渉学シリーズ8 天草諸島の歴史と現在、pp.195-206、関西大学文化交渉学教育研究拠点、2012.3。「漁業センサス」によれば、漁業経営体数は、1978年に971経営体であったのに対し、2008年は427経営体。

注5: 天草市、第1次天草市総合計画後期基本計画、2011.3。

注6: 牛深町中央公園内の記念碑に記される「事業の由来」より。

注7: 本WS資料集(参加者、関係者などに配布)に基づき作成。

注8: 天草市無形民俗文化財(1992年12月牛深市指定)。ハイヤ節系統民謡の源流と言われる。「ハイヤ総踊り」は、毎春に多くの観光客を集める「牛深ハイヤ祭り(牛深ハイヤ祭り実行委員会主催)」の目玉行事。

注9: 亀井、牛深と遊郭、周縁の文化交渉学シリーズ8 天草諸島の歴史と現在、pp.217-232、関西大学文化交渉学教育研究拠点、2012.3。

注10: 梅田、牛深漁業の今昔、下田印刷、1998.6。郷土史研究家・吉川茂史氏(牛深観光ボランティアガイドの会・会長)作成資料「牛深町真浦地区の成り立ちについて(2005.8)」。

注11: 千葉大学の大学院生は、大学院工学研究科建築・都市科学専攻所属。4年生は、工学部都市環境システム学科所属。3年生は、工学部建築学科所属。大阪市立大学からの参加学生は、大学院工学研究科都市系専攻所属。

注12: ディレクターは、千葉大学大学院教授が兼務。コーディネーターは、熊本県立大学准教授、有明高専准教授が兼務(他1名/千葉大学大学院助教)。

注13: 筆者1~3の記録と千葉大学からの提供資料に基づき作成。

注14: スタジオは、各グループ1室(約50m²)。インターネット接続可(各室にLANケーブル1本)。

注15: 時間的余裕がないことから、前日の夕方に中間発表会中止を検討。

しかし、各グループが提案の方向性を決めること、それらについて全体で確認することの必要性を確認し、実施へ。

注16: 本WS資料集と最終発表会での発表資料(パワーポイント)内容に基づき作成。

表4 各グループのメンバー構成と提案要旨^{注16)}

グループ	メンバー構成	対象地区	提案のタイトルと要旨
Group A	千葉 M2 (男), 熊本 M2 (女), 熊本 B4 (女), 千葉 B3 (男), 韓国 M2 (男), 韓国 B5 (女), 韓国 B4 (男) 【チューター】 韓国	牛深町 中心地区	USHIBUKA tourism & Trump Cards メンバー(ソト者)にとって魅力的に映った中心地区の風景をトランプカードのデザインへ。このトランプを使うことにより、観光客には住民との交流のきっかけが生まれ、住民には地元の魅力再発見のきっかけになることを期待。
Group B	千葉 M1 (男), 大阪 M1 (男), 千葉 B4 (女), 熊本 B4 (男), 熊本 B3 (女), 韓国 B5 (男), 韓国 B5 (女), 韓国 B4 (男) 【チューター】 千葉	真浦・加 世浦地区	職の船団 「豊かで弾力のある人付き合い」がある。ヒアリング調査から、これを真浦・加世浦地区の資源として捉え、若者(特にクリエイター)の移住促進策を提案。空き家を共同キッチン、空き地は共同風呂とし、住民が「もやいの精神」でこれらの管理運営をする。観光客や牛深町を後にした若者は、これら施設の利用を通じ「豊かで弾力のある人付き合い」にふれる中で、この地区の魅力に惹かれていく。
Group C	千葉 M2 (男), 大阪 M1 (女), 千葉 B4 (女), 熊本 B4 (男), 熊本 B3 (女), 韓国 B5 (男), 韓国 B4 (女), 韓国 B4 (男) 【チューター】 韓国	岡東地区	おもてな CITY 遊郭があったこの地には、おもてなしの文化がある。当初は、ヒアリング調査などを通じ、遊郭の建物そのものをいかに活かすかを検討。中間発表を受け、おもてなしの文化を岡東地区の資源として捉える方向へ。そして、小道、空き地、遊郭を物的な資源とし、おもてなしの文化を活かした岡東地区のイメージアップ戦略を提案。例えば、小道には、住民が育てる鉢植えをその両脇に配し、住民の地区への思いを描いた提灯を掲げる。
Group D	千葉 M2 (男), 熊本 B4 (女2), 有明 B3 (男), 韓国 B5 (男), 韓国 B5 (女), 韓国 B3 (男) 【チューター】 熊本, 有明	牛深町 中心地区	恋人たちの思い出 中心地区は、土地区画整理事業でつくられた新エリアと、それ以前に形成された旧エリアという2つのエリアから成る。新エリアには、「海彩館」や「ハイヤ大橋」などがあり、これらは既に観光スポットとなっている。しかし、旧エリアの楽しみ方は、まだ見つけられていない。そこで、旧エリアの資源を発見・編集し、新エリアと一体的に中心地区を楽しめる、若者のデートプランを提案。

*: 凡例、欄中の表記は、表2と同じ。

*1: 有明工業高等専門学校建築学科 准教授・博士(工学)

*2: 大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻 前期博士課程

*3: 熊本県立大学環境共生学部 准教授・博士(工学)

Assoc. Prof., Ariake National College of Technology, Dr. Eng.

Graduate Student, Osaka City University

Assoc. Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.